

一般社団法人日本超音波医学会第 87 回学術集会を終えて

会長 貴田岡 正史

(公立昭和病院 内分泌・代謝内科)

1. はじめに

まずもって第 87 回学術集会がパシフィコ横浜で 2014 年 5 月 9 日～11 日に「Ultrasonic Week 2014」として開催され、盛会裏に終了したことを参加者及び関係各位に深謝いたします。

2011 年 9 月 30 日の日本超音波医学会理事会で第 87 回学術集会の大会長にご指名をいただきました。この時の企画書で、超音波医学における「情報と活動」の「共有と統合」を通じた質の向上を目指すことを強調させていただきましたが、これが皆様のご協力で Ultrasonic Week 2014 として結実し実施の運びに至りました。

2. Ultrasonic Week 2014 について

学会会場は当初より複数の学会研究会の同時開催の可能性を念頭に置き、そのための十分なスペースを前提にパシフィコ横浜を展示会場とアネックスまで含めて使用することにいたしました。

関係諸団体に対する協力の呼びかけを 2012 年 3 月より開始いたしました。

開催の趣旨を『昨年発生した東日本大震災から約 1 年が経過した今、また TPP 等日本経済の先行きに不透明感が漂い日本の医療制度そのものが混迷を呈する状況のなかで、学会運営のあり方を再考する必要を強く感じました。そこで超音波医学会理事会の了承のもとに、プログラムの充実、研究発表内容の向上、参加会員の経済的、時間的負担の軽減、そして学会運営に対し協賛してくださる製薬会社等の負担の軽減を考慮し、超音波関連学会及び研究会を「超音波 Week 2014 (仮称)」として同時期に開催することを検討しております。その枠組みを構築するなかで超音波を介在して医療に関係する各分野の情報共有とその活用を視野に入れて、それぞれの学会と研究会が効率的且つ効果的な学術集会を開催できればと考えております。つきましては、意とするとところをおくみ取りいただきまして、何とぞ、格段のご理解とご賛同を賜りたく、お願い申し上げます。』

の文章に託して、最初に超音波医学会として会員歴を超音波専門医の受験条件として認定している学会と研究会に対して検討を依頼いたしました。

またメリットとして想定される点として

- a 単独開催より情報発信が格段に強化されることが期待できます。
- b 学会発表内容の一層の向上が期待でき、円滑な情報の共有が可能となります。
- c 併催することで、それぞれの会員相互の交流を図ることができます。
- d それぞれの総会開催経費、会員の総会参加に要する経費が削減できます。
- e 協賛企業の負担が軽減できます。
- f アジア地域における日本の超音波医学のプレゼンス向上が期待できます。

などを挙げさせていただき、参加を検討する際の一助としてもらいました。

その結果、最終的に 5 つの学会研究会が同時開催となり 8 つの学会研究会が共同企画という形で Ultrasonic Week 2014 に参画することになりました。共通のテーマはこれからの超音波医学に関連する学会・研究会のさらなる協力関係の発展を念頭において「未来への共振」といたしました。Ultrasonic Week 2014 として実現した同時開催、共同企画の一覧を提示いたします。

同時開催

日本超音波医学会第 87 回学術集会

第 6 回アジア造影超音波シンポジウム (ACUCI)

第 32 回日本乳腺甲状腺超音波医学会

第 114 回腹部エコー研究会

第 4 回日本甲状腺 Intervention 研究会

共同企画

日本心エコー図学会

日本消化器内視鏡学会附置研究会

日本母体胎児医学会

超音波内視鏡下治療研究会

日本消化器がん検診学会

光超音波画像研究会

日本超音波検査学会

基礎技術研究会

日本脳神経超音波学会



図 1

3. プログラム構成

実行委員は 15 分野 49 名の方をお願いいたしました。同時開催と共同企画の学会・研究会より 10 名の方に参画していただき、両者をあわせ 59 名で拡大実行委員会を組織いたしました。消化器領域の DDW-JAPAN の長年にわたる実績は周知の事実ですが、超音波医学関連では多数の学会・研究会の共同作業は初めての経験であり、準備段階の調整の難しさは予想以上でありました。そのため、結果的に関係各位に多大なご迷惑をおかけする事態になりました。このような状態にもかかわらず休日返上でプログラム編成作業にあたられた実行委員をはじめとする関係者各位に頭の下がる思いで一杯です。お陰様で最終的には非常に充実したプログラム構成を実現することができました。

4. 広報活動

Ultrasonic Week という形態の一部を担う形で学術集会を開催することは、日本超音波医学会にとっても初めての試みなので、事前の広報活動に力を入れました。

- ① 超音波医学会の会員の皆様へ開催枠組みの周知徹底をはかるため隔月で郵送される和文誌「超音波医学」にリーフレットの同梱を 2 回実施いたしました (図 1)。
- ② 会員の皆様に対する一斉メール配信も学会事務局の協力のもとに新たな情報共有が必要とされた際に遅滞なく実施させていただきました。
- ③ 会員向け以外に他領域にまたがる本学会の特性を生かし、関連する 151 学会にポスター一式の掲示を行いました。

Ultrasonic Week Set for May 9-11 in Yokohama. Symposium, Academic Programs, Seminars under Theme of "Resonance for Future"

The Japan Society of Ultrasonics in Medicine will hold Ultrasonic Week 2014 at Pacifico Yokohama on May 9-11.

Ultrasonic Week 2014 features an international symposium on breast and thyroid sonology, academic programs in 15 specific fields and an exhibition of ultrasonographs equipped with cutting-edge technology, simulated training and hands-on seminars using most advanced equipment. In addition, a mobile health screening van used in thyroid testing in Fukushima Prefecture will be on display during the three-day event. Experts will give public lectures on the ultrasonic diagnosis of fetuses, ultrasound thyroid testing in Fukushima and breast cancer screening.

Outline of Congress

Title: Ultrasonic Week 2014

Dates: May 9 (Fri.) - 11 (Sun.), 2014

Venue: Pacifico Yokohama

1-1-1 Minatomirai, Nishi-ku, Yokohama, Kanagawa Prefecture, Japan 220-0012

Theme: Resonance for the Future

URL: <http://www.ultrasonicweek2014.jp/en>

Ultrasonic Week 2014 co-sponsored and co-hosted by:

The 87th Annual Scientific Meeting of the Japan Society of Ultrasonics in Medicine
President: Masafumi Kitaka, MD (Division of Endocrinology and Metabolism, Showa General Hospital)
The 32nd Congress of the Japan Association of Breast and Thyroid Sonology
President: Seigo Nakamura, MD (Breast Center, Showa University Hospital)
The 6th Asian Conference on Ultrasound Contrast Imaging (ACUCI 2014)
President: Fumihiko Moriyasu, MD (Fourth Department of Internal Medicine (Gastroenterology), Tokyo Medical University)
Society for the Study of Abdominal Ultrasonography
President: Yasutsugu Bandai, MD (Tokyo Yamate Medical Center)
3rd Japan Thyroid Intervention Conference
President: Nobuhiko Fukunari, MD (Showa University Northern Yokohama Hospital)

About the Japan Society of Ultrasonics in Medicine

The Japan Society of Ultrasonics in Medicine was established in 1961. Since then, it has grown into a society comprised of more than 13,000 members, primarily involved in the academic research and clinical practice of medical and biological applications of ultrasonic waves. In recent years, basic technological developments, such as on elasticity and other structural properties and on contrast-enhanced ultrasonography, have been clinically applied, and as subsequent diagnostic findings have been accumulated, further research and development has been advanced.

図 2

- ④ アジアを中心とした海外向けに共同通信を介してプレスリリースを発信しました (図 2)。

5. Ultrasonic Week として参加者の皆様の利点に配慮

超音波医学の特徴の一つである臨床多領域にわたる内容をより網羅的に共有できる機会を設定できました。コメディカルを含む医療従事者は出張費として年一回の支出を限度として認められていることが多く、一回当たりの費用がある程度まで高くても資格認定単位等ができるだけ多く取得できることも魅力となります。学術展示会もスケールメリットが得

学術集合同連取得単位一覧

受付場所：展示会場（パシフィコ横浜 展示ホールA+B）内

共催・同時開催	専門医		工学フェロー		検査士	
	出席単位	発表単位	出席単位	発表単位	出席単位	発表単位
日本超音波医学会第87回学術集会	25単位	25単位	25単位	25単位	15単位	一般課題10単位 特別企画課題5単位
日本超音波医学会教育セッション	10単位	10単位	10単位	10単位	5単位	—
第32回日本乳癌甲状腺超音波医学会学術集会	5単位	5単位	—	—	5単位	5単位
第114回腹部エコー研究会*	5単位	5単位	—	—	5単位	5単位
乳房エラストグラフィ講習会*	10単位	10単位	10単位	10単位	—	—
第6回アジア造影超音波会議 (ACUCI)	5単位	5単位	—	—	—	—
第3回日本甲状腺 Intervention 研究会*	—	5単位	—	—	—	—

※共著者の発表単位は筆頭者の1/2とする。

※日超医に限り、特別企画の単位は筆頭者のみとする。

※指定関連学会・研究会の要件に合致すれば単位として認める。

共同企画開催	専門医		工学フェロー		検査士	
	出席単位	発表単位	出席単位	発表単位	出席単位	発表単位
日本超音波医学会基礎技術研究会	—	25単位	—	25単位	—	5単位
日本超音波医学会光超音波画像研究会	—	25単位	—	25単位	—	5単位
日本心エコー学会	—	25単位	—	25単位	—	5単位
日本母体胎児医学会*	—	25単位	—	25単位	—	—
日本消化器がん検診学会*	5単位	5単位	—	25単位	5単位	5単位
日本超音波検査学会	—	25単位	—	25単位	—	5単位
日本脳神経超音波学会	—	25単位	—	25単位	—	—
日本消化器内視鏡学会附置研究会超音波内視鏡下治療研究会	—	25単位	—	25単位	—	—

※共著者の発表単位は筆頭者の1/2とする。

*第114回腹部エコー研究会、乳房エラストグラフィ講習会、第3回日本甲状腺 Intervention 研究会、日本母体胎児医学会、日本消化器がん検診学会は別途参加費が必要です。

図3



図4

られたため展示企業にとっても費用対効果が高いものでした。今回の Ultrasonic Week の企画はこれらの点でも評価が高く、結果的に大幅な参加者増に結びつきました（図3）。

6. 学会開催の実際

学会当日の天候を心配しておりましたが、幸いなことに3日間とも富士山を遠望できる快晴の日が続きました。これもひとえに皆様のご努力にお天気も応えてくれたものと感じております。

① いざ会場へ

パシフィコ横浜の会議センター、展示場、アネックスはもともとコンパクトにまとまった会場ではありますが、動線が分かれることになったため案内等に工夫を凝らしました（図4）。

Ultrasonic Week の形態で実施するにあたり参加費の設定を慎重に検討しましたが、結果的に参加費は希望する参加形態によって多種類に及ぶことになりました。そのため、参加受付は自動受付機を使用する替りに豊富な人員を配置することで混乱をきた



図 5 a 学会初日の受付風景



図 5 b

さない工夫をいたしました。お陰様で日本超音波医学会単独の人数でみてもこれまでの最高の参加人数となりましたが、Ultrasonic Week 2014 全体の受付業務としても比較的円滑に運営可能でした。1 階ホワイエに広い総合 PC スライド受付を設け各学会、研究会の同時受付を前提に受け入れ能力に余裕をもたせました (図 5 a, b)。

② 学会規模について

1) 演題数は 会長口演 1 題 特別講演 1 題 教育講演 1 題 Internal Symposium 2 企画 計 21 題 共同企画 6 企画 計 42 題 領域横断と領域別特別企画 51 企画 計 272 題 ハンズオンセッション 2 企画 計 18 題 奨励賞演題 21 題 一般演題 588 題の総計 965 題にのびりました。この他に教育セッションとして 20 講演、スポンサードセミナー 26 企画 ハンズオン 9 企画 シミュレーター研修 1 企画が実施されました。

Ultrasonic Week 2014 全体としてはこれに日本乳癌甲状腺超音波学会 83 題、アジア造影超音波シンポジウム 41 題 甲状腺インターベンシ

ン研究会 6 題 腹部エコー研究会 3 題 「産婦人科超音波セミナー 2014」(医師向け) 23 演題 「産科超音波セミナー 2014」(コメディカル向け) 11 演題が加わりました。この他に各種講習会が開催されました。

2) 参加人数とその内訳

JSUM (単独) 4,607 名

JABTS (単独) 513 名

ACUCI (単独) 38 名

甲状腺インターベンション研究会 (単独) 23 名

腹部エコー研究会 (単独) 296 名

Ultrasonic 2014 共通券 726 名

日本消化器がん検診学会シンポジウム 216 名

産婦人科超音波セミナー 140 名

産科超音波セミナー 140 名

となり総計 6,830 名の参加者となりました。この他に市民公開講座参加者や福島県派遣スタッフ、甲状腺超音波検診受診者などが来場いたしました。

③ 会長講演は「甲状腺超音波診断の過去・現在・未来」の演題名で行われ、これまで長年に渡り研究



図 6



図 7 a



図 7 b

テーマとしてきた微少血流の臨床評価を基軸に先達の業績から新技術の将来への展望にも言及したものでした (図 6)。

④ 特別講演は長崎大学名誉教授で放射線影響協会理事長の長瀧重信先生による「放射線と甲状腺がん：広島・長崎，チェルノブイリ，そして福島，－医療従事者の役割と責任－」(図 7 a) でその結論は科学的・客観的知識の共有が重要で，福島での 3 年間の科学的・客観的な調査による放射線の個人の被ばく線量は，現在も将来も健康影響は考えにくいと

いうものでした。長瀧先生の哲学とでもいうべき「放射線を正しく怖がる，放射線を怖がりすぎない，しかし，侮らない。知識の共有のために，対話を少人数で行い客観的な正しい知識をまとめる。被災者に寄り添う医療職の役割として被災者の健康被害をあらゆる意味で最低に」とのお言葉は心に残るものでした。特別講演終了後，学会員と参加者を代表して感謝状と記念品の贈呈を行いました (図 7 b)。

教育講演は志村浩巳先生に「甲状腺疾患スクリーニングの有用性と問題点」のテーマで講演いただきました (図 8)。



図 8



図 9



図 10

⑤ この他の特別企画は前述のごとく 61 企画にのほりましたが、このうちの 4 企画についてご紹介いたします。

- 1) コメディカル中心の企画として「さまざまな立場の超音波検査士をマネジメントする」を行いました (図 9)。
- 2) 乳腺と甲状腺についてそれぞれ International Symposium を開催しました (図 10)。
- 3) 特別プログラム領域横断企画として 2014 年 4 月に発足した日本専門医機構による「新専門医制度と超音波専門医」について当学会でこれまで専門医制度の確立と質の向上にご尽力された千田先生と現在制度の整備を直接担当されている方々によるシンポジウムを開催いたしました (図 11)。
- 4) ハンズオンセッションとして日本超音波医学会「機器及び安全に関する委員会」および日本超音波検査学会「安全委員会」共催企画で「超音波検査者が安全・快適に働くために－検査環境の現状把握と改善に向けた取り組み－」

を行いました。展示会場に特設の検査室を組み上げ実際に超音波断層装置を設置して実体験可能な企画でした。

⑥ Ultrasonic Week 2014 × 超音波 Week 2014 市民公開講座は、5 月 11 日 (日) の 13 時から第一会場 (メインホール) で開催されました。テーマは「知って安心! 気軽に受けられ、ここまで分かる! 超音波検診」といたしました。

第一部 産婦人科 13:00 ~ 14:00

体に優しく、詳しく分かる、超音波診断座長:



図 11



図 12

岡井 崇 先生（愛育病院 院長）

婦人科検診って、どんなことをするの？－超音波検査で分かる子宮卵巢の病気－

第二部 甲状腺 14：10～15：00

震災後3年目を経過した福島における小児甲状腺超音波検査について

第三部 乳がん 15：10～16：00

乳がんの診断と治療－最近の話題より－

〔診断編〕 乳がんはどのように見つけて、どのように診断するのか。

〔治療編〕 乳がんの発症予防はどこまで可能か？

の三部構成で若い女性を中心に390名の市民が参加いたしました。

7. 学術展示について

展示場は Ultrasonic Week のいずれの学会、セミナー、研究会の参加者であれば全て入場可能といたしました。機器業展示のみならず参画学会・研究会の紹介コーナー、日本超音波医学会機器及び安全に関する委員会検査環境検討小委員会による「理想的な検査室」の展示、横浜コンベンションビュロー等の参加も得られ例年にない規模になりました。また「オープニングアター」やハンズオンの3会場も展示場内に設置し利便性を図りました。それぞれの配置にも工夫を凝らしましたので展示会場図を提示いたします（図12）。お陰様で好評を博し peak 時にはラッシュ時の電車を思わせる混雑ぶりでした（図13）。



図 13



図 14

8. Ultrasonic Week として新たに実現したこと

① 福島県と福島県立医科大学のご協力を得て福島県県民健康調査に用いる超音波検診車の展示を行いました(図 14)。神奈川県に避難されている対象者(被災当時 18 歳以下)の甲状腺超音波検診を実施いたしました。被験者のプライバシーに十分配慮して動線と実施場所を分離して関係者ご努力で平成 26 年 5 月 10 日(土) 131 人, 平成 26 年 5 月 11 日(日) 157 人計 288 名の検診をつつがなく実施いたしました。

② Ultrasonic Luncheon Seminar Digital Archive

ランチョンセミナーは必然的に同時開催が多くなります。また、限られた時間で濃縮された最新の情報提示がなされますので興味ある内容のセミナーが目白押しになります。当然見逃さざるを得ないセミナーが存在することになります。そこで演者の先生と該当企業の許可が得られたセミナーを動画配信することにしました。そこで本学術会議では web 上

に Ultrasonic Luncheon Seminar Digital Archive を設け、見逃したランチョンセミナーを、開催翌日正午以降にホームページでご覧いただける機会を設けました。閲覧に必要な ID, パスワードは当日参加登録時に配布いたしました。アクセス数は約 2,300 となり十分活用していただけたと考えられました。

また、ランチョンセミナーはそのお弁当も魅力の一つですが、そこに競争原理を導入しました。複数業者によるコンペティションの結果を集計して点数化いたしました(図 15)。

③ シミュレーターを用いた各種疾患の超音波研修参加は事前申し込み制で産科、循環器、消化器の 3 分野のエキスパートの先生に講師をしていただき、実体験に近い形でトレーニングを行い大変好評でした。

④ 学会で開催したハンズオンセッションとスポンサーのハンズオンセミナーの 2 本立てで実施いたしました。

超音波 Week 2014 ランチョン会当アンケート結果

■ 5月9日 (金)

結果	本日のお弁当は10点満点で何点でしたか？											他の学会と比べて本日のお弁当はいかがでしたか？				全体のボリュームはいかがでしたか？								味付けはいかがでしたか？			
																ごはんの量				おかずの量							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	未記入	1.満足できた	2.他に支障がない	3.他の学会の方が美味	未記入	1.多い	2.丁度いい	3.少ない	未記入	1.多い	2.丁度いい	3.少ない	未記入	1.濃い	2.丁度いい	3.薄い	未記入
合計	4	2	14	18	93	87	222	216	82	89	5	423	316	76	17	47	708	75	3	47	701	59	26	54	752	24	3
%	0.5	0.2	1.7	2.2	11.2	10.5	28.7	28.0	9.9	10.7	0.6	50.8	38.0	9.1	2.0	5.6	85.0	9.0	0.4	5.6	84.2	7.1	3.1	6.5	90.3	2.9	0.4
平均												7.28															

■ 5月10日 (土)

結果	本日のお弁当は10点満点で何点でしたか？											他の学会と比べて本日のお弁当はいかがでしたか？				全体のボリュームはいかがでしたか？								味付けはいかがでしたか？			
																ごはんの量				おかずの量							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	未記入	1.満足できた	2.他に支障がない	3.他の学会の方が美味	未記入	1.多い	2.丁度いい	3.少ない	未記入	1.多い	2.多い	3.少ない	未記入	1.濃い	2.丁度いい	3.薄い	未記入
合計	0	2	5	5	41	48	129	225	104	103	15	424	217	15	12	81	509	29	2	81	573	11	13	89	572	5	5
%	0.0	0.3	0.7	0.7	6.1	7.1	18.1	33.2	15.4	15.2	2.2	63.5	32.5	2.2	1.8	12.1	83.3	4.3	0.3	11.9	84.5	1.6	1.9	13.3	85.2	0.7	0.7
平均												7.66															

■ 5月11日 (日)

結果	本日のお弁当は10点満点で何点でしたか？											他の学会と比べて本日のお弁当はいかがでしたか？				全体のボリュームはいかがでしたか？								味付けはいかがでしたか？			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	未記入	1.満足できた	2.他に支障がない	3.他の学会の方が美味	未記入	ごはんの量			おかずの量			未記入	1.濃い	2.丁度いい	3.薄い	未記入	
合計	2	0	7	18	54	72	139	173	57	63	1	313	222	36	13	22	463	98	3	14	495	64	12	35	540	10	1
%	0.3	0.0	1.2	3.1	9.2	12.3	23.7	29.5	9.7	10.8	0.2	53.6	38.0	6.2	2.2	3.6	79.0	16.7	0.5	2.4	84.6	10.9	2.1	6.0	92.2	1.7	0.2
平均	7.35 点																										

図 15



図 16

9. Get Together

会場は学術展示場と同じフロアーとし参加者の満足度を第一とするため複数業者によるコンペティションを行いました。また、学術展示への参加も同時に行えるように配慮した結果、機器展示は20時までオープンといたしました。

- ① 乳がん手術患者の山田邦子さんによる talk show を行いました。実体験に基づき患者さんの立場と医療者としてのあるべき姿が浮き彫りになったように思います (図 16)。
- ② 前回に引き続いて開催したクイズコンテストの表彰式も行いました (図 17)。
- ③ セレモニー終了後、適度のアルコールと飲食を楽しみながら多岐にわたる学会・研究会の参加



図 17

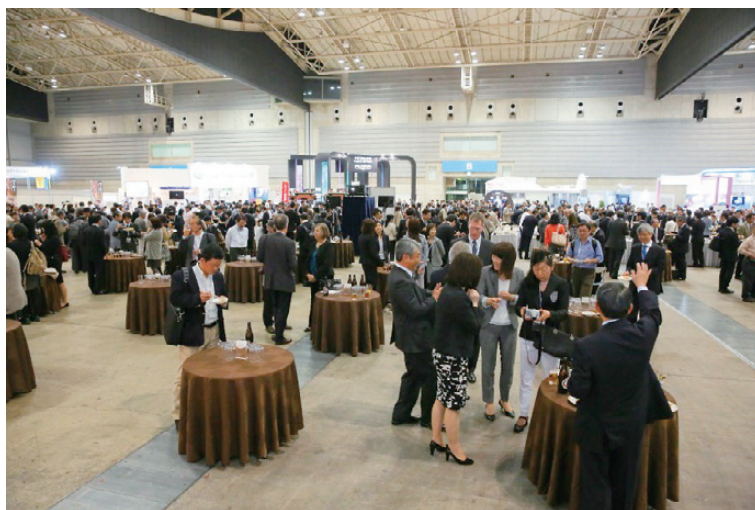


図 18



図 19

者がお互いに直接情報を共有し懇親を深めました (図 18)。

10. 次回の開催に向けて

最終日閉会式終了後次回会長の東邦大学消化器内科教授住野先生とともに今回の Ultrasonic Week の盛会裏の無事終了を感謝するとともに来年の成功を祈念して握手をいたしました (図 19)。

11. 反 省 点

複数の学会研究会が協同で継続的に開催するための恒常的組織が望まれます。

準備段階の調整の難しさが予想以上であったため、情報の共有や事務連絡に齟齬をきたし、関係各位に多大なご迷惑をおかけする事態になりました。

多団体がかかわる学会開催に対するノウハウの蓄積が将来への課題と考えられました。